

JENDL 開発検討小委員会第二回会合議事録

日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）13:15-17:00

場所：原子力機構東京事務所第 3 会議室

出席者：渡嘉敷幹郎（原燃工）、杉村直紀（NEL）、田中健一（原電）、佐波俊哉（KEK）、執行信寛（九大）、片渕竜也（東工大）、今野力、羽様平、辻本和文、岩本修（JAEA）、千葉豪（北大）、岩本信之、国枝賢（JAEA、オブザーバ）

議事録

1. JENDL 開発の意義についての再確認

今後の JENDL の目指すべき方向を議論する前段として、今後も引き続いて JENDL の開発が必要である理由について自由討論を行った。これまでの JENDL で達成されたもの、問題として残っているものを今後の小委員会の活動を通して明確化していく方向性を確認した。また、CIELO プロジェクト等の「世界統一ライブラリ」の開発が議論され始めた状況下で敢えて日本独自で核データファイルを開発する理由や、国家資産、国家戦略物質としての核データファイルの重要性等について議論を行った。

2. 小委員会からの提言のまとめ方について

本小委員会で行った議論は年度末に「提言書」という形でまとめる予定であり、ここでは提言書の骨子について議論を行った。将来の JENDL が目指すべき方向性（総論）を定めてそこから各論を考えていく、というのではなく、まずは各応用分野において将来の JENDL に対する要望を集約し優先度をつけることを行い、そこから将来の JENDL のイメージを形作るという方向で今後進めていくことを確認した。

3. 各応用分野における課題・要望の重要度分類について

小委員会ではこれまでの活動で、JENDL-4.0 の課題、次期 JENDL への要望等を洗い出す作業を行ってきた。これらの課題・要望を、その応用分野から「軽水炉炉心設計」「高速炉炉心設計」「核融合炉・遮蔽設計」「ビーム応用」「核物質探知・福島支援」「廃止措置・廃棄物処分」という 6 つのカテゴリーに分類し、その各々のカテゴリーにおいて各項目の重要度分類を行うこととした。また、その作業分担を行った。

4. 小委員会の今後の進め方について

今後は 12 月末までに各応用分野における課題・要望の重要度分類を行い、1 月以降にその集約を行う。その後、今後の JENDL の目指すべき具体的な方向性を議論することとした。